

再生

自己の道は自己にとって唯一にして絶対必至の一道なれど、
他から見ればワン・オブ・ゼムたるに過ぎない——との自覚
こそ大事なれ、そしてこの理を知ることを真の「自覚」とは
いうなり。

森信三先生一語千鈞より

山山又



又山

中・高生のための「人間の生き方」

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第82回 10月14日(土)
場所：仁風庵
(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。
(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

一三 耐忍への秘訣は？

― 人間学 小門 ―

わたくしは前章にいたるまで、いろいろと日常生活上のきまりや、また人間として守るべき色いろな徳目について、申してきましたが、ここまで来てもう一つ、どうしても申さねばならぬ徳目がありました、それはどんなにリッパな徳目でも、それを身につけ獲得するには、それぞれ自分なりに懸命な努力精進をしなくてはならぬということでもあります。

皆さん方も、すでにある程度ご存じのように、わたくしどものこの人生は、各自がそれぞれ重い荷を背負って遠い坂道を行くようなものであります。言いかえれば、それぞれ程度の差はありましようが、われわれのこの人生には苦勞や苦難はつきものであります。そしてそれらの中には、生まれながらにして身体障害というような、ハンディを背負わされている人もあれば、また片親ないしはご両親に、早く死にわかれた方もおありでしょう。その他、病氣や災難など、人生の途中でさまざまの逆境に出あうものであります。げんに皆さん方の身近な人のなかにも、すでにそういう逆境の中をよく耐えて、リッパに行きぬいておられる人を、一人や二人は知っておられることでしょう。こういうふうには、ある程度の障害や支障がつきものでありまして、それから免れないのであります。

では、こうした色いろな逆境に対してわたくしたちは、いかにして耐えて乗り切るか、という問題こそ、皆さん方にとって最も大事なことと思われるのであります。そこでわたくしは、皆さん方に一つの「黄金のカギ」を差し上げたいと思います。それは何かというと、われわれ人間にとって真に生き甲斐のある人生の生き方は、「自己に与えられたマイナス面を、プラスに逆転し、反転させて生きる」

という努力であります。つまりわれわれは、自分に対して与えられたマイナス面に対して、いつまでもクヨクヨしたり、ブツブツ言ったりしないで、マイナスとしてこれを踏まえながら、全力を挙げてそれと取り組むことによつて、ついにそれをプラスにまで転換しなければならぬのであります。こうは申しても、現在の皆さん方には、わたくしの申していることの真意を、十分には理解し難い人のほうが多いと思いますが、しかし逆境を克服する唯一の秘訣として、これだけはどうしてもお伝えしておきたいと思っております。

皆さん方も、「偉人の伝記」を読まれたらおわかりの通り、広く世の中に貢献し、後の世にまでその名の遺つたような人々は、すでに逆境の中を乗り切つて、マイナスをプラスに転じて生き、そのうえ自己の「心願」を貫いて努力精進した人々なのであります。

そこで本章の題目にかかげた「耐忍」ということですが、これは二つの態度を意味していると申せましよう。その一つは、苦難もしくは逆境に対する態度であり、今ひとつは、目的もしくは心願に対する態度であります。

このうち、前者についてはすでに申しましたので、これから後者の態度について申してみたいと思ひます。

ところで先ず申しあげたいことは、「この現実界ではいかに価値あるものでも、努力精進なくしては得られない」ということであります。言いかえますと、困難に耐える積極的持続的な態度、すなわち「耐忍」がなければ、とうていその目的は達成せられないということでもあります。

ここで皆さん方のように、現在中学や高校に学んでいる人々にとっては、「試験」という関所は、どうしても避けられないわけですから、それに対して一体ど

ういう心構えで立ち向かうかは、現在の皆さん方にとっては、一つの重大な問題と申してよいでしょう。

ところでどんな優等生でも、試験が好きだという人間は、まずは絶無と言ってよいでしょう。それは申すまでもなく、それなりの復習ならびに記憶という努力を要するからであり、また試験の結果、自分の真の実力の程度が、ハッキリ見せつけられるからであります。またそれによつて合格・不合格というような、重大な判定が下されるからであります。いわんや上級学校への入試ともなれば、一段と深刻の度を加えるからであります。

そこで、わたくしとして申したことは、試験というものは、だれ一人として好きな人間はいないし、またその成績は、必ずしもその人の人間的な価値をそのまま示すものとは言えないにもかかわらず、だからといつてこれを軽視したり、無視したりしてよいなどとは、どうしても言えないのであります。それというのも、それによつてその人の一生の運命が大きく左右せられるからであります。

その上に、今一つ大事なこととして申したいのは、人間というものは、どうしても自分がしなければならぬ事柄に対しての、たとえそれがどんなにいやな事柄であろうと、またその事自体に、どれほど価値があると否とにかかわらず、常に「全力」を傾けてそれと取り組み、ついにそれをやり抜くということは、人間として再重大なことでありまして、このような人間的態度を鍛える点では、試験というものは、スポーツにおける合宿訓練などと同様に、ひじょうに意義があると思ふのであります。ですから試験に対して、真剣に取り組めないような人間は、人生の真の勝利者になることは、おそらくは非常に困難ではないかと思ふのであります。

「読書論」ノートより

端山護

読書は何といつても心の糧であつて、毎日欠かせない。

○ 読書は本の選択さえ誤らなかつたら、実に楽しいものである。

○ 最初のうちは自分が、あくまで読みたくて読みたくて、たまらぬような書物をえらんで読むこと。

○ 途中で、どうもむつかしくて分らぬ処があつたら、一おうそこは飛ばして読むがいい。しばらく保留して後日読むと、意外に読み通せるものである。

○ 「読むほどずつ買い、買うほどずつ読む」というのが読書の理想。

○ 本を買つたら、まず最初の二十五頁を、一気に読むことが大事。

○ 真の良書を精読すると、一種の発酵作用がおこり、その書物の思想が自然に溶けこみ、身に消化吸収されるようになる。

○ 「行い余力あれば以つて文を学ぶ」とは、読書は自分のつとめは果たした上で——ということを教えた孔子の言葉。

○ 「一日読まずんば一食喰わず」とは、森先生の教えである。

○ 読書は著者との出会いである。読書によつてわれわれは、多くの師や友にめぐまれるわけである。

時を清く
礼を正す
不盡

第二章 気品ある人格を育てる

ある中学生の作文から



大阪の貝塚市立第四中学三年生の津田ひとみさんが発表した、少年の主張「輝き」をご紹介します。

*

「輝き」

第四中学校三年 津田ひとみ

今まで味わったことのない達成感。私の心が輝いた瞬間でした。学校のトイレと聞くと、誰もがあの臭い汚れた便器が頭をよぎると思います。私もそうでした。便器を素手で磨くなんて、絶対に考えられない……その光景を見た時に受けた衝撃は、言葉に言い表せないものでした。

昨年九月、私達の学校に「泉州掃除に学ぶ会」の方々に来て下さいました。私達四中の生徒と一緒にトイレを掃除する。その活動に私も参加しました。それまでも、学童保育、老人ホーム、障害者の施設など様々な場所でボランティア活動に意欲的に参加してきました。そのたびに「ありがとう」と感謝される、温かい笑顔に包まれる事がうれしくて……。

以前の私は、完璧主義者でした。何でもできる良い子と思われたく

て必死でした。私がそんな風に思うようになったキツカケ——それは小学生の時、両親が別々に住むことになりました。私にとって父のいない寂しさより、毎日働き続けている母の姿を見る苦しみの方が何倍も大きいものでした。何もできない幼い自分のもどかしさ……。忙しい生活の中で、常に笑顔を絶やさなかつた母が初めて流した涙。今でも目に焼きついていきます。その時決心したのです。

「よい子になろう」と。「お母さんに喜んでもらいたい」。小さな心に芽生えた大きな想いでした。

やりたくない事でも、周りの人が見ているからやる。人の目ばかり気にする日々。いつの間にか建前だけの私と本心の私。二人の私を使い分けるようになり、「よい子」を演じるようになっていきました。その方が楽だし、周りも認めてくれる。純粋に母を思いやる気持ちが間違つた方向に進んでしまっている事にまだ私は気づいていなかったのです。

そんな私が、荒れていると噂の四中に入学しました。この学校では、生徒会を中心に学校を良くする為という目標を持ち、様々な取り組みを行っていました。良い子でいたい私はそんな活動にも積極的に参加しました。でも、心に中では「何で私が掃除なんか……。」

「しんどい」「面倒くさい」と、もう一人の私が囁いていました。上辺だけの心が入っていない活動を続けていました。

そんな時で出会ったのが、学ぶ会の方々、何のためらいもなく、汚れた便器を素手で磨き始めたのです。一瞬鳥肌がたちました。

「何でそこまでして……。」

その時、私の中で何か音が立てて崩れていくのを感じました。

何の見返りも期待せず、無償の想いでひたすら便器を磨く人々。自分の価値観のちっぽけさを思い知らされました。私が今まで大切にしてきたことで何だったんだろう。他人に良く見られたい。その為に本当の自分を抑えてきた。ウンで塗り固められた空っぽな人間。私は良い子なんかじゃない。掃除だって好きじゃない。私は弱い人間なんだ——今まで心の奥に閉じ込めていた感情が一気に溢れ出してきました。

「変わりたい……心の底から頑張れる私に」。そう強く思いました。

そして、おそるおそる、自らの手を便器に突っ込んでみる……すると不思議な事に抵抗感は薄れていき、逆にきれいになりたい一心で夢中になって磨き続けていく自分に気づいたのです。みるみる内に清潔感に漂う真っ白なトイレに大変身。充実感で胸がいっぱいになりました。私自身の汚れた部分もこの便器の汚れとともに、洗い流されたような気がしました。自分の殻を破り、一歩大きく成長することができました。

今ではすっかり当たり前になったクリーン作戦。やるたびに皆の達成感に満ち溢れた笑顔が輝いています。この輝きが波紋のように広がっていき学校や社会をも変えていく大きな力になっていきます。

自分の心を磨くクリーン作戦。

二十年後の後輩達の為にも、伝統として繋いでいく事が私の使命なのです。

*

見事な文章です。発表する態度も自然であり、且つ堂々としていて敬服しました。大阪大会最優秀賞受賞にふさわしい内容です。皆様に、明るい話題として紹介させていただきます。

第四中からは他にも高塚いずみさんなど、津田さんに匹敵する少年少女が現れています。

このように輝く少年少女が第四中からなぜ誕生するのかは、先生方にお会いしてよく分かりました。至誠を備えた指導者の下には優れた生徒が生まれることに納得しました。津田さんを指導された川崎雅也先生は、朝早くに登校して、百三十人もの生徒さんの日誌に朱を入れておられるのと、頭が下がりました。

日本を美しくする会の活動を通して、全国には素晴らしい先生方が大勢いらつしやることを知り、嬉しく思っております。

津田ひとみさんの作文を、ぜひ読者の皆様にご紹介したいと思ひまして、掲載させていただきました。

「変わりたい……心の底から頑張れる私に」

そして、おそるおそる、

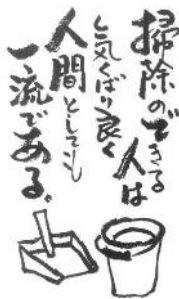
自らの手を便器に突っ込んでみる……

すると不思議な事に抵抗感は薄れていき、

逆にきれいになりたい一心で

夢中になって磨き続けている

自分に気づいたのです。



(津田ひとみさんの作文より)

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 359 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR 九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 **ハウスマイト**



第359回 博多駅早朝清掃

30年にあと1回！

10月8日(日曜日)

48名参加



第 3 5 9 回「博多駅早朝清掃」、ホームページを見て参加しましたという佐賀県在住の方の友人三人組女性が初参加。博多駅早朝清掃も 3 0 周年を目前に世代交代の時期が間近に迫ってきている実感がわいてきました。帆足先生の世代の方は二、三名になり寂しくなってきました。若い世代の方が想いを引き継ぎ次の一步への道しるべを繋げていくそんな活動の基盤が出来上がりつつあるのかもしれない。 けさえもん 拝



小学生のはなちゃん

2023/10/08



ラジオ体操

2023/10/08



お掃除の歌を合唱

2023/10/08



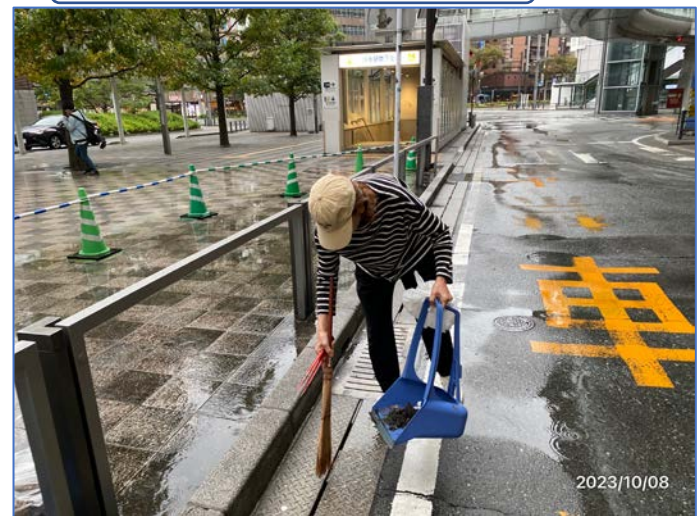
お掃除の歌が響きます

2023/10/08



博多駅副駅長挨拶

2023/10/08



2023/10/08



2023/10/08



お世話してくれた仲間たち

2023/10/08

太宰府作務に学ぶ会／戒壇院 2023.7.2 新規スタート

10月1日(日曜日) 毎月第一日曜日(作務の後は座禅会) 第4回／T46回



和尚さんのお言葉頂戴



福岡空港ミリオン清掃／H30,6,20～ T65回

R5,10,14



宝探しをして歩いた経路

～古き良き時代の日本再生～

とんぼろ

Instagram



@RAKUNOUJIN1962

=== 心を耕し、生を拓く ===



2023/10/28

第9回 とんぼろ海掃隊海岸清掃in長目の浜 R5.10.28

令和5年(2023) 11月号 NO.012

とんぼろ掃除に学ぶ会／薩摩川内市 in長目の浜

第9回 長目の浜海岸清掃 《楽農人／とんぼろ海掃隊》



後援



2023/10/28



トンボロに日の出を迎える

2023/10/28



2023/10/28



2023/10/28



2023/10/28



2023/10/28

長目の浜は、第19代島津光久公が、巡視のさい「眺めの浜」と命名したことに由来されているらしい。殿様が眺めるに適した美しい海岸線だったに違いない。今でも、遠目には美しいきれいな海岸線もいざ下りてみると無残な状況。打ち上げられた漂着ごみ、埋まってしまったごみの墓場になっている。平成27年に国定公園化した環境省も、観光客をごみ拾いツアー客を誘致したら国定公園に指定した意味もあるのかも知れない。 富吉



埼玉県深谷市／鹿児島県薩摩川内市



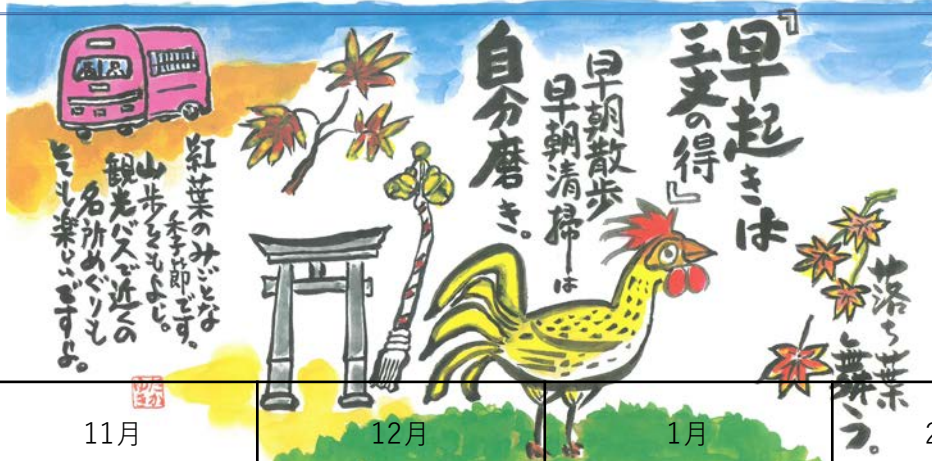
コロナ渦が収束し、三年ぶりに楽農人の尊敬する深谷の篤農家Oさん宅を伺った。早朝に福岡空港から成田空港へ到着、直行して深谷へ着いたのは13時丁度、深谷駅でOさんがお迎えに来てくださり自宅へ着くと、テーブルにはいつものように奥様（元小学校の先生）の手料理がずらりと並んでいた。毎回、お腹がいっぱいになり食べることができない。見えている料理の後に、赤飯と深谷名物のほうとう鍋もいただき、食事の後は、琴の演奏でもてなしを受けた。見事な腕前にも練習中とご謙遜のお言葉に頭が下がる。腰の手術後のOさんに代わり奥様と畑の巡回。甑島への栽培前哨戦としての青パイヤ、ミニトマト、深谷ネギと見せていただいた。よく管理手入れされた圃場は、いつ見ても素晴らしい。 けさえもん拝

試験栽培終盤のこしき茜



6月1日に植えた、甑島の次世代を担うサツマイモ品種「こしき茜」の収穫（試し掘り）を10月28日、海岸清掃の後に行った。圃場の準備、苗の成長が遅かったこともあり、植え付けが6月にずれ込んだこともあるが、まずまずの出来であった。懸念された元腐れ病は一株も確認されなかった。焼酎の原料用に最適とされるタマアカネ(茜霧島が有名)を甑島特有の土を独自の微生物資材で土壌改良し、農薬や化学肥料を使わない栽培とした。海風によるミネラル分の豊富なサツマイモに仕上がっているように思う。

楽農人：けさえもん



	11月					12月					1月					2月				
日	4	5	8	18	25	2	3	8	8	16	1	1	6	8	20	3	4	8	10	
曜	土	日	水	土	土	土	日	金	金	土	月	月	土	月	土	土	日	木	土	
行事活動名	福岡空港ミリオン清掃 66回	戒壇院早朝作務 第5回	博多駅早朝清掃 第360回	長目の浜海岸清掃 第10回	30周年記念大会 日本を美しくする会	福岡空港ミリオン清掃 67回	戒壇院早朝作務 第6回	博多駅早朝清掃 第361回	博多駅早朝清掃 30周年記念行事	長目の浜海岸清掃 第11回	戒壇院早朝作務 第7回	新春 長目の浜海岸清掃	長目の浜海岸清掃 第12回	博多駅早朝清掃 第362回	福岡空港ミリオン清掃 68回	福岡空港ミリオン清掃 69回	戒壇院早朝作務 第8回	博多駅早朝清掃 第363回	長目の浜海岸清掃 第13回	
場所	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	東京都ベルサール新宿	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	博多百年蔵	鹿児島県薩摩川内市	太宰府市戒壇院境内	鹿児島県薩摩川内市	鹿児島県薩摩川内市	博多駅博多口	福岡空港周辺	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	
開始時刻		6時30分	6時15分	6時30分	13時		6時30分	6時15分	10時	6時30分	6時30分	5時30分	6時30分	6時15分		6時30分	6時15分	6時30分	6時30分	
運営団体	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	日本を美しくする会	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	太宰府作務に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	楽農人 とんぼろ海掃隊	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	

上記行事予定表は、富吉の参加する予定を掲載させていただいています。
その他、活動しているお掃除実践もごございますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人)富吉 袈裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ海掃隊

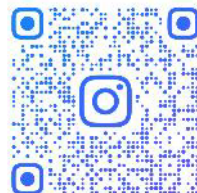
〈合同事務局〉〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 ≪仁風庵≫

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F_JISSENJIN



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。